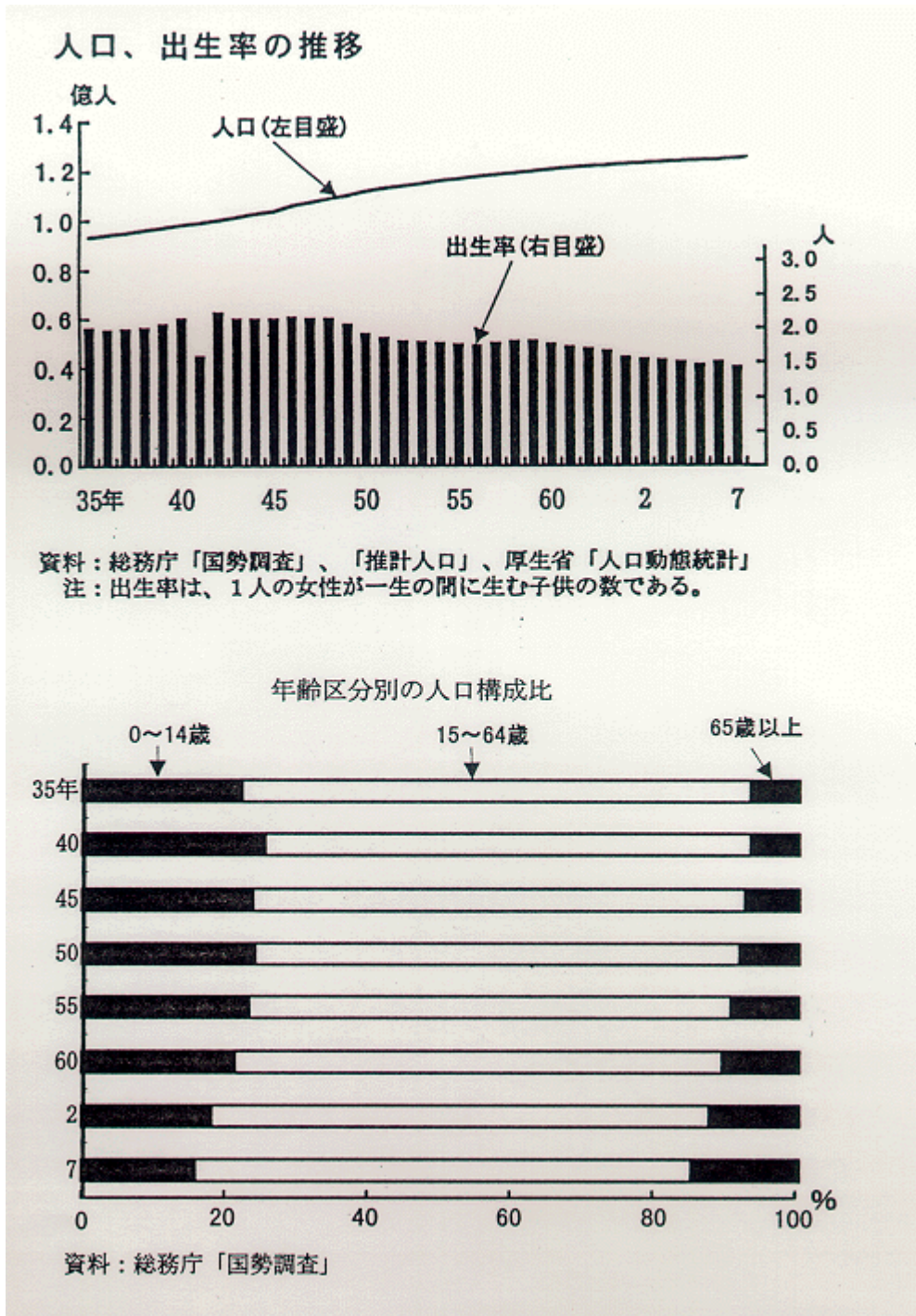


2我が国経済社会

(1)我が国の人口

我が国の人口は、引き続き増加しているが、その伸びは鈍化しており、平成2～7年の間では、年率0.3%の増加となっている。また、高齢化、少子化が進行している。



(2)我が国経済の動向

我が国の経済規模は、世界経済(GDP)の18%を占め、世界第2位の経済力を持つまでに至っている。

しかし、近年においては、バブル経済期を経て、実質経済成長率1%程度の低成長にとどまっている。

主要経済指標の推移

	35年	40	45	50	55	60	2	7
実質国内総生産(GDP) (兆円)	72	111	188	235	291	343	430	462
5年間の増加年率 (%)	8.5	9.3	11.3	4.7	4.6	3.3	4.8	1.2
1人当たりGDP (ドル)	477	932	1,967	4,475	9,146	11,282	24,273	41,045
鉱工業生産指数 (2年=100)	13.3	22.3	45.9	50.1	67.5	80.4	101.3	95.3
民間企業設備増減年率 (%)	25.4	10.3	22.2	0.5	4.8	6.0	10.0	-2.4

資料: 経済企画庁「国民経済計算」、通商産業省「鉱工業指数」

注: 鉱工業生産指数は、年度値である。

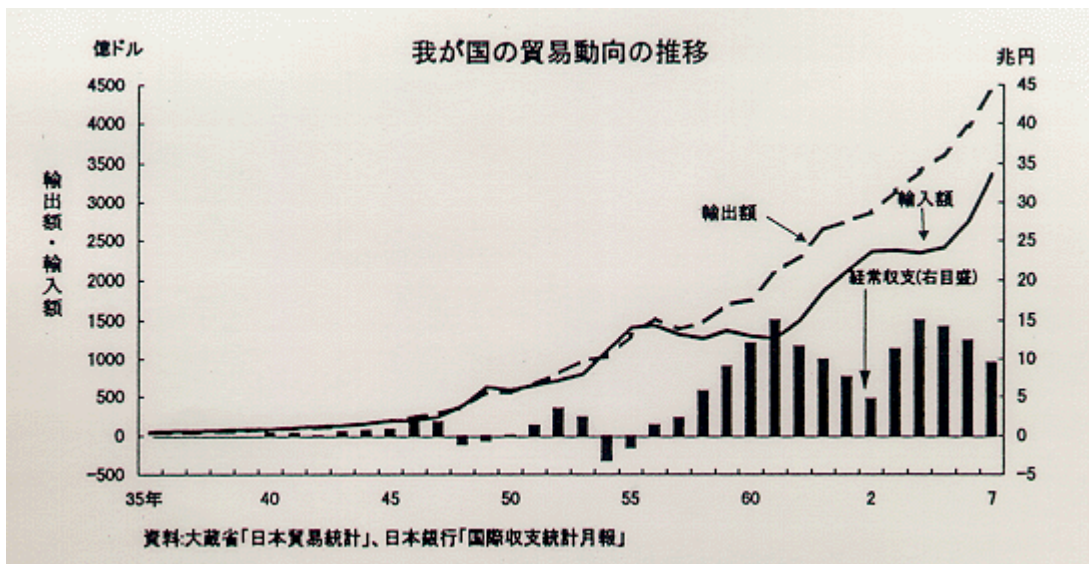
労働力人口については、緩やかに増加しているが、人口全体の高齢化・少子化等を反映して、最近ではその伸びが鈍化している。

労働関連指標の推移

	35年	40	45	50	55	60	2	7
労働力人口 (万人)	4,511	4,787	5,153	5,323	5,650	5,963	6,384	6,666
5年間の増減率 (%)	1.5	1.2	1.5	0.7	1.2	1.1	1.4	0.9

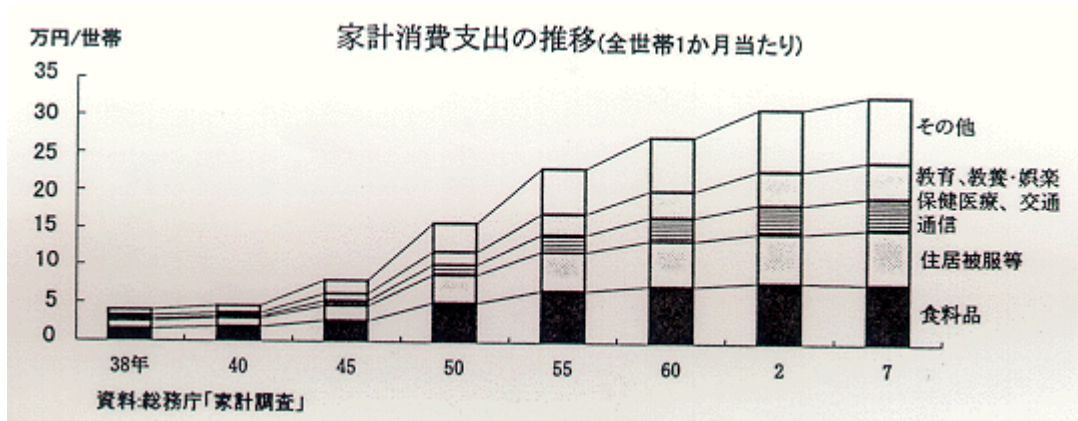
資料: 総務庁「労働力調査」

経常収支の黒字幅は、海外生産比率の上昇、製品輸入の増加等から、近年縮小の方向にある。



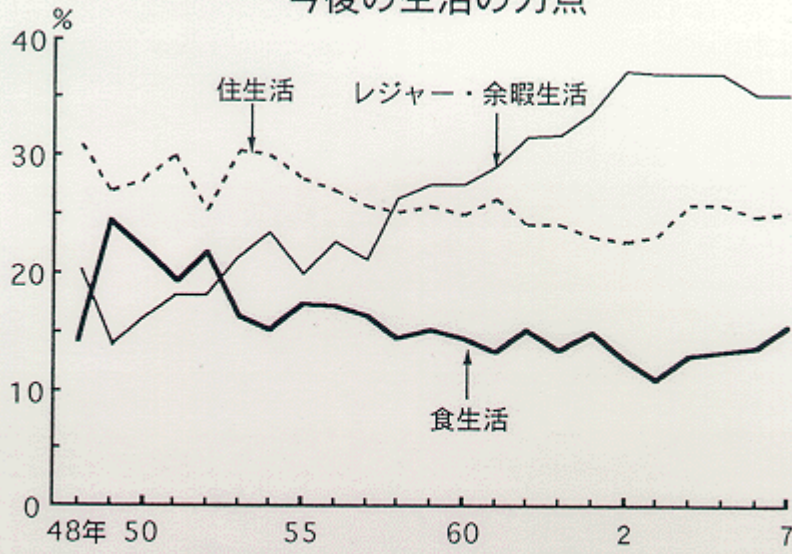
(3)消費・生活の動向

家計消費支出の動向としては、**食料品の伸びは緩やかなものにとどまり**、住居、教育、娯楽等の伸びが大きくなっている。



国民の生活意識は、物の豊かさよりも心の豊かさを求める傾向が強まって降り、**ゆとりやうるおいを重視する価値観**が強まっている。

今後の生活の力点



資料：総理府「国民生活に関する世論調査」